

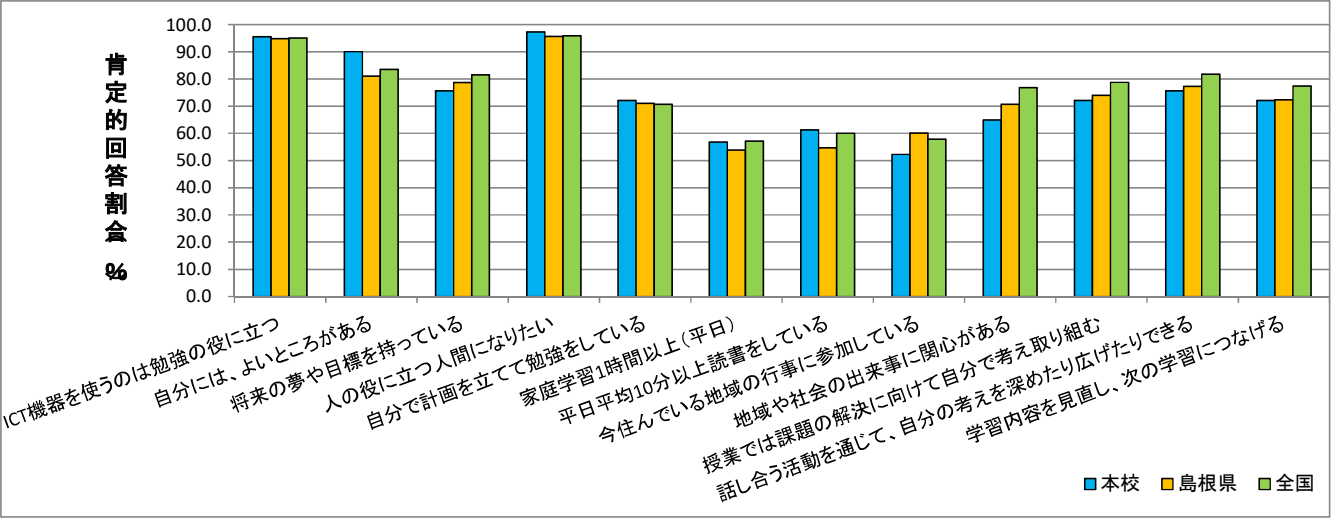
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ○記述式問題において、条件に合った記述ができる児童の割合が高く、正答率も高い。 ●言葉(敬語)や漢字の問題の正答率が低い。 ●文章や資料から必要な情報を見つける問題の正答率が低い。	・新出漢字の学習方法を見直し、「読む」「意味理解」「書く」活動(指導)を意識する。 ・学習した言葉を使った文づくりや4コマ漫画づくりなど表現する活動や互いに交流する場の設定を意図的に行う。 ・文を指でなぞったり、繰り返し読んだりメモを書いたりする活動を低学年から積み上げ継続的に行うことで、文章中の大事なこと(分かったこと・聞かれていること・キーワード等)をつかめるようにする。
算数	○どの領域においても、全国よりも平均正答率が高い。 ○知識・技能に関して、特に計算や図形の性質の正答率が高い。 ●切った開いた三角形の問題の正答率が低い。(問題の意味理解ができていない) ●2位数÷1位数の筆算について、位ごとの意味を問う問題の正答率が低い。(筆算の意味を正しく理解できていない)	・図形や数の学習では、実際に作図したり組み立てたり順に並べたりするような算数的な活動の時間を確保する。 ・問題文を要約する時間を確保し、問題の意味を共有しながら解決する習慣をつける。 ・対話活動を充実させ、児童同士が自分の考えを言葉だけでなく図や数などで表現できるようにする。

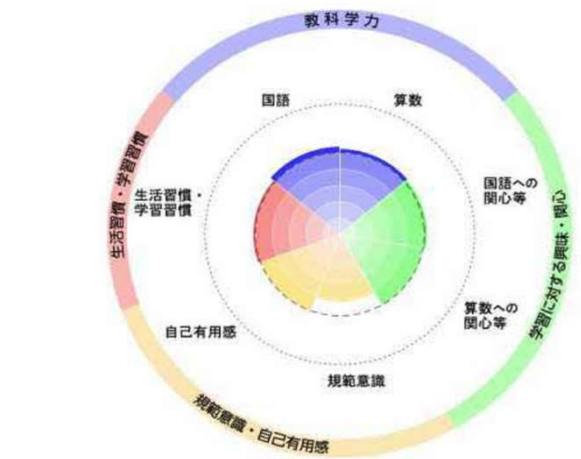
(2)児童質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○学校外での学習時間が長く、読書量が多い。 ○自分にはよいところがあると答えている児童の割合が高い。 ●将来の夢や目標をもち前向きに生活しようとして、地域や社会の出来事に関心をもちて行事に参加したり自分にできることを考えようとしていたりする児童がやや少ない。	・学校の授業で友達と関わる活動を十分にとり、多様な考えに触れたり学び合うことの楽しさを味わったりする経験を増やす。 ・総合的な学習の時間を中心に地域のもの・こと・人に触れる機会を計画的に設定し、体験や対話を通して地域に目を向け行動しようとする子どもを育てる。 ・「子ども夢☆未来塾」をはじめとする様々な学年行事を通して目標や夢、仕事に目を向けて前向きに行動しようとする意識を高める。

(3)児童質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

『高め合う集団作り』
・学級や学年の仲間と意見を交流する機会を充実させ、対話力や表現力を磨く。
・漢字の学習方法を学年間で統一させ、意味を理解しながら書くことができるようにする。
・要約することを習慣化させる。

【受検者数】
111 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。